

大雨の季節です！ もう一度確認、命を守る行動

国危機管理防災本部 ☎ 39・2262

まもなく梅雨の季節がやってきます。毎年のように全国各地で豪雨災害が発生し、長岡市でも昨年7月18日、川口地域を中心とした大雨で、床上浸水や土砂崩れなどの被害を受けました。いざという時にどう行動するのか。自らの命、家族の命を守るため、改めて家族や近所の人と確認しましょう。



家族で“備え”会議を開こう

万が一に備え、避難所や連絡方法、持ち出し品などを家族で確認しましょう。一人暮らしの人は、家族や近所の人に連絡方法などを伝えておくことも備えの一つです。

情報を集める

テレビやラジオ、インターネットから、今後の天気などの情報を集めましょう。



高齢者などは早めに避難を

避難に時間のかかる人（高齢者や障害者、乳幼児など）とその家族や支援者は避難を始めてください。その他の人は避難の準備と共に、避難に時間のかかる人が近所にいる場合は、早めの避難への“声掛け”をお願いします。



避難所が安全な場所へ

落ち着いて避難してください。住んでいる地区にかかわらず、安全に移動できる避難所へ避難してください。



避難が困難な人の手助けを

高齢者や障害者などの避難に、町内会や自主防災会など地域のみなさんの手助けをお願いします。

直ちに安全な場所へ

河川の決壊や土砂の崩落などがいつ起こってもおかしくない危険な状況です。直ちに避難してください。



★膝近くまで浸水した場合、自宅の2階への避難の方が安全なこともあります

日頃から

大雨の予報が!

発令!

避難準備・高齢者等避難開始

避難所を開設します

発令!

避難勧告

発令!

避難指示(緊急)

パンフレットで“備え”を確認

市では、風水害や土砂災害などへの具体的な対応をまとめた冊子「市民防災のしおり」、洪水・土砂災害の危険箇所や避難先を記した「ハザードマップ」を作成しています。万が一の備えにご活用ください。※冊子が必要な人はお問い合わせください。ながおか防災ホームページにも掲載しています(下記のツール②)



情報収集に使えるツール

①緊急告知FMラジオ

緊急時、自動的に電源が入り、避難情報などが最大音量で流れます。全ての町内会（主に町内会長）、民生委員、障害者などに配備しています。※高齢者などへの購入費補助あり



②ながおか防災ホームページ、SNS

雨量や河川の水位、道路状況、休校・休園などの情報をホームページ (<http://www.bousai.city.nagaoka.niigata.jp/>) に集約します。また、フェイスブックやツイッターでも最新の防災情報を配信します。



③ながおか土砂災害Dメール【要登録】

ゲリラ豪雨や土砂災害などの緊急情報を携帯電話に配信します。登録方法はお問い合わせください。

▲大雨による土砂崩れで通行止めとなった西川口の県道(昨年7月19日)

「いつもと違う!」は土砂災害のサインかも

- ①長雨や大雨のとき
- ②川の水、井戸水、湧き水の量が変わったり濁りだしたりしたとき
- ③土地に亀裂が生じたとき

は、土砂災害の危険が迫っています。いつでも避難できるように準備してください。

また、日ごろから近くの山、崖、川などの様子に注意し、異常があればすぐに連絡してください。

また、日ごろから近くの山、崖、川などの様子に注意し、異常があればすぐに連絡してください。



●市政出前講座を実施しています

職員が自主防災会などへ出向き、避難計画の概要や最近の取り組みを説明します。

▶原子力オフサイトセンターでの意見交換(4月27日)



市町村研究会が、茨城を視察 原子力防災への取り組みを確認

図原子力安全対策室 ☎ 39・2305

県内全30市町村で構成する「市町村による原子力安全対策に関する研究会(代表幹事・長岡市長)」の実務担当者28人が4月26日・27日、東海第二原発のある茨城県内を視察しました。

茨城県庁では、広域避難計画における避難元と避難先の調整や安定ヨウ素剤の市町村への備蓄体制などを意見交換しました。水戸市役所では、県の調整を踏まえた避難先の役割分担の確認や、今年3月に締結した東海第二原発の安全協定などを学びました。さらに、原子力災害時の対策拠点となる茨城県原子力オフサイトセンターと、隣接する日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センターを訪問。施設や設備の整備状況、国・県・市町村との連携体制を学びました。

今回の視察で得たことを、今後の原子力安全対策に活かしていきます。